

キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

聖書にきく

篠田真紀子

論説

「育つことが仕事」の

子どもたちを支え、命を守り、

保育者の心を守る

掛札逸美

絵本のとびら

ひとりてひらく・子どもとひらく

桑原泉



2022 JUNE

6

地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。

口語訳聖書・マルコによる福音書4章28

今月の聖句は「神の国」をテーマにキリストが語られた譬えの一つで、マルコ特有の教えです。当時熱心党と呼ばれた人たちも聴衆に含まれていたと思いますが、彼らは支配力を及ぼしていたローマに我慢できず、武力でもイスラエルを復興させようとする人々であり、イエスの教えられた神の国についても、自力で早急に実現しようと願う人々でした。

イエスさまは、これに対し（人間は種を撒き、水を注ぎ、害虫を防ぐ等はできるが）成長させる生命力は種自体の中に宿り、時が来ると芽が出、穂が出て実が実ると言われました。福音宣教に携わる者は、もっぱら神の言葉の種を撒き、後は「成長させてくださる神」（コリント信徒への手紙-3章7）に委ねる時、神は順序よくこれを養い育ててくださるということです。

この成長は「おのずから」不断に行われ、一定期間を置かないと感知し難いものです。撒くことと待つこと、これが大切です。子どもの成長にも順序があり、発達段階があります。芽、穂、実の順であって、決してこの逆とはなり得ません。性急に実から求めては健全な成長は望めません。

1986年に開催されたキリスト教学校教育同盟保育分科会で荏司雅子先生は主題講演の中で「フレーベルの保育は子どもの自己活動を重んじるわけです。それはちょうど種子の話に例えられます。種子にはいろいろの素晴らしい要素が秘められている。しかしそれが実際に芽を出し、花を咲かせ、実を实らせるためには、適当な時期に撒き、水や光を調整して環境を整え、成長を助けてやる必要がある。保育者は何を教えるか、いかに教えるかを研究する以前に、子どもを知らなければならない。」と述べられています。

入園、進級し、「新しい出会い」を経験した子どもは、やがて自ら「動き出す」のです。保育者にとって望ましいことは、子ども自ら、動き出し、活動していけるように待ち、見守り、促すことではないでしょうか。

「桃、栗三年、柿八年」果樹が芽を出してから実がなるまでの年数は、みな違います。子ども自身が動き出すのを見落とすことなく、大切に受け止め、育てていきたいものです。

（吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長）

1987年「キリスト教保育」誌5月号より

キリスト教保育

第639号6月号



幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉若い保育者のみなさんへ 久保健太

〈論説〉育つことが仕事一の子どもたちを支え、

命を守り、保育者の心を守る 掛札逸美

図書紹介 泉山順子 大藤英子

〈小論〉「マルトリ予防」と

『とも育て』の重要性 友田明美

聖書にきく・お話 篠田真紀子

〈連載〉キリスト教保育Q&A 塩谷直也

〈連載〉粘土あそび 江村和彦

目福口福耳福 池田真理

礼拝のお話 赤松緑

風 勝本正實 編集子 白井真名子

連盟だより

表紙絵
カット 田中楨子

長野祥三 長縄えいこ 金井ユリ
中畝治子 松成真理子

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

【カリキュラム】

6月 月のねがい表

心にとめて 鈴木直江

0・1・2歳児 ダビデ保育園

実践からの学び 久保小枝子

子どもと賛美するために

心にとめて 大瀬知子

3・4・5歳児 西条栄光幼稚園

実践からの学び 岡田直美

絵本のとびら 桑原泉

41 40 34 32 31 30 24 22 21



60 59 50 49 44 42